

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「一台の救急車」

武蔵村山市立第五中学校 3年 吉澤 来未

私は小学校1年生の頃、母と帰る途中、遊び半分でロープをまたいで歩いていたとき、ロープが足に引っかかり、目の前のマンホールに頭からぶつける大事故を起こしてしまいました。たまたま近くにいた学童の先生が、救急車を呼んでくれて適切な治療をすぐに受けることができました。そんなきっかけがあってから、救急車の費用のしくみについて疑問を持ち始めました。

日本では救急車を利用する際、お金がかかることはありません。救急車の出動は、行政サービスの一環つまり、私たちが普段払っている税金で出動しているのです。救急隊の人員費や救急車のガソリン代、メンテナンス代、救急車内に設置されている医療機器や物品費用など全て自治体の税金が使われています。もしお金がかかるとすると、1回の出動でおおよそ4万5000円もかかるといわれています。例えば、日本の救急車の出動にかかる費用が無料なのが、めずらしいのです。海外では有料な国が多く、ニューヨークでは5万円、カナダは6万円と決して安くはありません。

ですが、コロナウイルスで世界中がパンデミックとなっていた時、救急車の出動回数が大幅に増加していました。また違う問題点として、緊急性が乏しい119番通報が後を絶たないことも多くありました。それにより、2022年の12月、東京都内で救急車が横転する事故が起きました。出動の増加により救急隊員の疲労が重なり運転を誤ったのが原因でした。この事件をきっかけに救急車の適切な利用の大切さの課題もありました。さらに救急車の利用増加によってサービスの負担が増していることで財務省より年間で2兆円にのぼる消防関連の費用の抑制を図る目的で、救急車を利用し軽傷だった患者に料金負担を求める提案や、救急車の有料化にも賛否両論あり、なかなか難しいのが現状です。救急車は119番押したら来てくれるという便利さもある一方、社会の状況・流れの中で問題がまだまだあるのだと感じました。

私達の生活の中には消費税の他、所得税・固定資産税など学生の私達にはまだまだ身近でない税の種類が沢山あります。私の両親に税金についてどう思うかと尋ねたら「取られている」と表現しました。確かに私も「取られている」と表現すると思います。ですが、税金には、今回の救急車だけでなく、義務教育費や医療費・子育て費用に税金は使用されていると考えると、生活の中で税金によって支えられている部分はとても大きいと思いました。税金を使って社会を動かす側の国会の方達は税金を払っている私達が納得する形で国民に伝わりやすい形で、良き日本を保っていただきたいです。そのために私達も、国民としてしっかり関心を示していきたいと思えました。